

協定校への留学 留学報告 2017

 愛知県立芸術大学

目次

ロンドン芸術大学(イギリス) 辻將成さん	1
ハンブルク音楽大学(ドイツ) 川瀬千音さん	7
リスト音楽院(ハンガリー)① 高木伶さん	13
リスト音楽院(ハンガリー)② 渡辺理紗子さん	15

ロンドン芸術大学(イギリス) 留学報告 Vol.1

美術研究科博士前期課程 彫刻領域 辻將成さん

9月17日に入国してから2週間ほど経ちました。

ロンドンは古い建物と新しいビルが混ざって景観ができており、雰囲気もとても良いです。ヒースロー空港についたら空港の Wifi をつないでイミグレーションも難なく通れました。私は無料のエージェントを使ってホームステイ、短期間の語学学校を手配しました。個人的に手配出来るのであれば必要ないかもしれません。

私は前のスケジュールが詰まっており、学校の入学の手続きなどが始まる 1 週間前に入国しましたが、もし余裕があるのなら 9 月頭にはロンドンに入って、UAL が提携している語学学校に行くのはおすすめです。行っていた学生に会いましたが、英語の他に UAL の雰囲気もわかるそうです。2 週間以上のコースしかなかったので私は通えませんでした。



まだ生活など慣れたわけではないですが、少しずつ地理などわかってきました。ホストマザーがとても優しくいろいろと助けてもらっています。こっちでストリートダンサーの友達も出来始めてダンスの練習も出来る環境が整い始めたので、ストレスもなく過ごせています。授業が始まったら英語に苦戦する日々が訪れそうですが、一生懸命頑張ります。

交換留学生の多くは、ヨーロッパからのエラスムスの学生ですが、何人か気の合う仲間も出来ました。やはり皆が苦戦しているのは英語です。イントネーションや表現のちがいでわからないことも多いです。私はヨーロッパの学生よりも英語が出来ないので更に苦戦しています。でも聞けば丁寧に教えてもらえるのでなんとかなっています。ついでに全てが新鮮なので何かと不安だらけでしたが、段々不安は消えわくわくする気持ちです。

まだ観光は全然出来ておらず、平日も学校とエイジェント関係のことと、ダンスの練習で観光にまわせなかったのが、これからは観光地巡りもしていこうと思います。わかっていたはいましたがロンドンはギャラリーがとても多く、ギャラリー巡りもしようと思います。UAL からおすすめの展示を教えてもらえるのできっかけになると思います。

食べ物や水といった私生活については今のところ問題ないです。ただ外食は高いからしていません。家の食事は基本的にホームステイならついていると思うので最初は食事のことを考えてもホームステイがおすすめです。水はやはり硬い印象ですが実際変わらない気もします。でも飲み水はミネラルウォーターを買っています。たまに水道水も飲みますがそこまで変わらないです。

まだ 2 週間なのでわからないことだらけですが、一日一日大切に過ごしたいです。



ロンドン芸術大学(イギリス) 留学報告 Vol.2

ロンドンに来て1月半ほど経ちました。私の感覚ではとても長かったように感じます。

授業も本格的に始まりました。最初にグループ分けされ、1人のチューターに 15 人ほどの生徒という感じです。10 月頭の週に自分の制作について一人ずつプレゼンテーションがありました。私はガチガチにまとめた原稿と PDF のプレゼン資料を作り意気込んでいきましたが、グループの生徒たちはリサーチの参考文献や、ラフスケッチなどを見せながら喋るという感じでしたので、かえって目立ちました。日本からの留学生でブレイクダンサーということもあり、興味を持ってくれる生徒は多いと感じました。質疑応答の時間もかなり設けられましたが、英語はとても難しくて全部受け答え出来ませんでした。それからは、わからなかったり聞き取れないことは可能なら紙に書いてもらうようにしています。

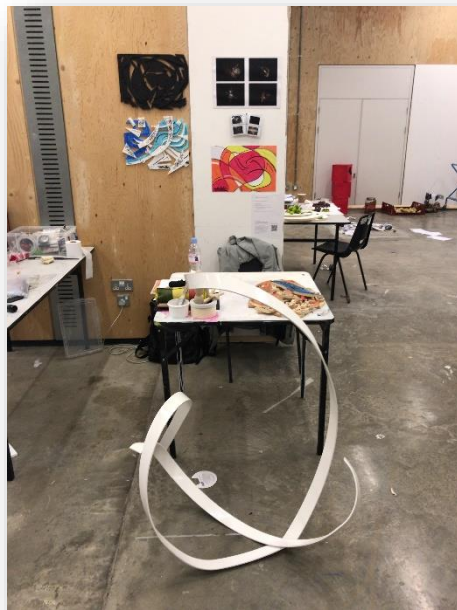


私のチューターはとても面倒見の良い方で、いろんな課題をくれたり、リサーチ内容を沢山教えてくれます。先週は初めて二人で面談があり、作品のことや今行っていること、行おうとしていること、資料のリサーチや思考内容など様々なことについて意見交換しました。

UAL に来て感じるのは、みんな歴史的背景と自分との作品というところをとても大切にしているということです。制作も勿論していますが、図書館やパソコンを使ってリサーチをしている生徒がとても多いと感じます。そして私もそういうところを質問されることが多く、今勉強に励んでいます。様々な芸術の文脈を知り自分のスタイルと繋げていくという考え方のように思います。

他の授業でも授業前に読んでおく資料など、かなり多く感じます。英文をひも解くところからスタートなのでなかなか難しいし時間がかかります。内容自体も西洋ならではの感じで、ジェンダー、黒人差別、体系、など私が専攻している身体的芸術の分野でも、考えが生まれや育ち、環境によって様々だと感じます。やはり私は日本人であり日本の文化の中で生きてきたと改めて感じています。今はそれをアイデンティティにし制作に活かしていきたいと考えています。

プライベートも充実した日々を送っています。ダンスを定期的に出ていて、平日は学校とダンスの練習、祝日のダンスのイベントや観光も少しずつ出ています。英語はまだまだ難しく感じるし、突っ込んだ話になると単語がよけい難しく大変なこともあります。毎日一生懸命頑張ります。



ロンドン芸術大学(イギリス) 留学報告 Vol.3

11 月も終わり、ロンドンは先週くらいから一気に寒い日が増え、冬本番という感じになってきました。今のところ風邪を引くことも体調を崩すことも無く過ごしています。食べ物、水など生活の変化にもなれて何不自由なく生活出来ています。

CSM での生活は先月から一気にレベルアップし、セミナー・グループディスカッション・チューターとのチュートリアルなどかなり多かったように感じます。先月までは時間を見つけて英語の勉強もしていましたが、11 月は時間を見つけては図書館などでリサーチという感じになっていました。

私自身の作品にもやはり変化があり、チューターやクラスメイトと話したりしながらアイデアを見つけていきました。こっちは作品の善し悪しは勿論ですが、自分自身の文脈についてもかなり求められるので、そこが難しく悩む時もありました。また、私自身西洋美術について勉強不足なところも多かったのでいろいろなことを調べました。チューターからはせっかくロンドンに居るのだから、バレエやコンテンポラリーといった今まで私の作品には無かった表現を取り入れてみてはどうかなどとフィジカル的なアドバイスももらい、実際にバレエやコンテ、ミュージカルも見に行きました。こういう西洋の文化にすぐ触れることが出来るのもとても良い経験だと感じました。そしてそのレベルは素人の私が観ても素晴らしいもので、作品にも関連させることが出来ました。その他にもギャラリー・美術館・博物館も多いので、様々な作品や歴史に触れることが出来、いろんなインスピレーションを受けています。CSM のワークショップも使い慣れてきて、金属・木の工房を利用しながら作品を作りました。助手の方々も優しい方が多く、色々手助けしてくれます。



そして先週はオープンスタジオという一般の方も入れる、プチエキシビションがありました。私も何とか作品を準備し、無事に展示することが出来ました。スタジオを片付けて誰がどこを使うかといったキュレーションも生徒たちで行いました。展示は大成功で様々な方から褒めていただきました。私個人としても沢山の方と作品を介して喋る機会ということで良い経験になりました。本当にたくさんの方が来ていて、4時間ほどのスタジオ公開展示でしたが充実した時間でした。公共の展示スペースではなく大学内なのに一般の方が沢山くるのも特徴的だと感じました。

私生活では、テロのようなものがあったり、クリスマスが近づいているのでイベントごとが多く何かと緊張感をもって生活しています。ダンサーの友達も沢山出来たので、観光に出かけたり、ダンスイベントに行ったり、基本的に一日フリーの日は無い感じで過ごせています。このような状況なので観光が大分追いついておらず、12月・2月の休みを利用して観光しようと思っています。12月は私の親もせっかくだしということで遊びにくるみたいなので、少し羽をのばせるかと思っています。

年末に向けて引き続きテロや犯罪には注意して生活したいと思います。そして、あと1週間の今期の学業にしっかり向き合おうと思っています。



ハンブルク音楽大学(ドイツ) 留学報告 Vol.1

音楽研究科博士前期課程 声楽領域 川瀬千音さん

私は今年の4月から交換留学生として、ドイツのハンブルク音楽大学で声楽を学んでいます。声楽の学生は、10数年ぶりらしく、日本人の歌手は今、大学に私しかいません。なので、声楽のカリキュラムやシステムについての情報を得ることが非常に難しく、何もわからないまま4月がスタートしました。交換留学生は、レッスンを受けるだけで良いのですが、聴講や授業への参加も、担当の先生の了承がいただければ受けることができます。私は、古楽に興味があったので、Alte Musik の授業と、大学のオペラに参加しています。レッスンは週に2回(1レッスン 45 分)とコルパティのレッスンは週1回あります。その他にも、大学で行われるオーディションや、学内のコンクールに申し込むこともできます。私も、11月に行われる初期バロックの演奏会の企画に参加することになったので、6月からは、その授業も受けています。

大学のオペラは、オペラ科の方がソリストを務めることになっていて、パーセル《Dido and Aeneas》とウィリアムズ《Riders to the Sea》を公演します。私は偶然にもキャストの方が病気で空きができたため、5人ほどで歌う合唱に参加することになりました。5月に初演、その後、毎週公演をしています。千秋楽は6月の末です。同じオペラを何度も公演することや、ソリストの方の歌う量の多さに驚きました。毎日の生活の中にオペラの公演があることも、私にとって不思議でした。レッスンのあと、語学学校に行き、夕方のオペラの本番を終えて、夜遅くに帰宅するという日も時々あります。本番の日も、いつも通りのスケジュールをこなしてから本番に臨まなければいけない。忙しいことは言い訳にはならないんだと思い、本番の気持ちを常に持続させることの重要性を感じました。



私の先生、Smits先生はとても温和な方ですが、音楽は、とても力強く熱いものを感じます。歌いながら熱心に教えてくださるので、言葉の壁はあまり感じません。空気間で理解できるというか、音楽でわかるという感覚だと思います。しかし、体の使い方や、息に関する説明などドイツ語が分かればもっと吸収することができますし、先生との日常の会話もしっかりこなしたいので、少しでも早くドイツ語に慣れるよう、語学学校には毎日4時間程通っています。

最初に考えていたよりも多忙な日々を送っていますが、とても貴重な経験をさせていただいています。ただ、言語や生活環境の異なる学生たちと一緒に演技をし、一緒に歌うことは非常に難しく、演出家の話や指揮者の意図を理解することもまだできません。そして声楽の学生にとって1番の問題は発音だと思います。アジア人の学生はみんな発音が問題だ、と言っています。いろんなことが、本当に私たちには不利で、ドイツ人以上の努力をしなければ学ぶことすら難しい。そんな当たり前のことを痛感しました。しかし、ハンブルクに居られる日本人の方々は、みなさんととても前向きで、努力家で、いつも輝いています。私も、少しでも早く近づけるようになりたいと思っています。

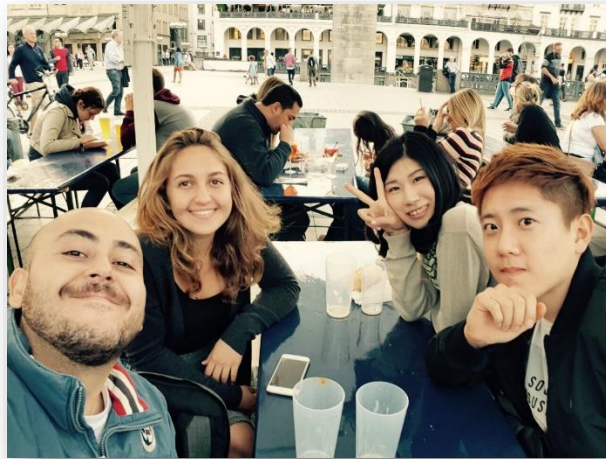
まだまだたくさんの困難が待ち受けていると思います。不安で眠れない日もあるかもしれませんが、この場所で音楽ができることの幸せを常に忘れず、このチャンスを生かし、より多くのものを吸収できるよう日々努力していきたいと思っています。



ハンブルク音楽大学(ドイツ) 留学報告 Vol.2

チェコの首都、プラハへ遊びに行きました。学部時代の友達がプラハに住んでおり、半年ぶりに会うことができました。

プラハは本当に綺麗な街で素晴らしかったです。ドイツに居るとヨーロッパ旅行が簡単にできることが本当に嬉しいです。チェコ語は非常に難しく、簡単な挨拶を覚えてもらいましたが、なかなか覚えられませんでした。チェコ料理を食べたり、プラハ城を見学したり、買い物をしました。夜は、学部の頃に寮でよくやったように、食材をスーパーで買って一緒に料理をし、ビールを飲みながらたくさん話をして過ごしました。



プラハからハンブルクへ帰った日の夜は、歌の先生のお宅でパーティがありました。先生が前の日からピザの生地を作ってくださり、自分たちで好きな具材をのせて焼く、セルフピザパーティでした。とても美味しかったですし、たくさん人がいらっちゃって、とても楽しかったです。お庭で卓球をしたのが本当に楽しかったです。今年で卒業の方が先生に歌をプレゼントしていて、すごく心が温かくなりました。

最近、語学学校の友達とドイツ語をたくさん話したいね、ということで語学学校の後にビールを飲みながら様々なテーマについて話し合います。難しい話になると英語になってしまい、まだまだみんな話することは難しいですが、それぞれの国のことや文化、宗教について話をします。日本は平和な国なので、友達の話や聞くと、自分が安全で自由な国に生まれたのだと実感します。暗くなるような話もしますが、大抵は食文化について話すことが多く、みんなで日本食レストランに行ったり、トルコのカフェで朝食を食べたり、どのビールが一番美味しかったかなど話しています。

ハンブルク音楽大学(ドイツ) 留学報告 Vol.3

8月末に1週間ほど、シュトゥットガルトでドイツリート講習会に参加しました。

フロイデントール城を貸し切った講習会で、素晴らしい先生方に教えていただき、とても勉強になりました。たくさんのリート仲間にも出会え、歌の話もたくさんしました。ピアニストと長い時間をかけて、曲について一緒に話し合い、演奏することはとても楽しかったです。ハンブルクとは違う街並みや、小さな村ならではの温かさにも触れ、とても素晴らしい経験になりました。



9月からは、ハルステンベックでドイツ人の女の子に歌を教えるバイトをする事になりました。日本が大好きなご家族で、お母様が日本語がすごくお上手なのでとても楽しくレッスンさせていただいています。



10月4日からまた学校が始まります。私は修士試験のために帰るので、残すところ後3ヶ月程です。

ハンブルク音楽大学(ドイツ) 留学報告 Vol.4

11月中旬にハンブルク市立図書館の企画で、Thomas Selle(1599-1663)という作曲家のコンサートに出演しました。

私が今まで演奏してきたバロックの作曲家よりも古く、慣れない古楽器の伴奏に、人と合わせることが要求される曲だったので、様々な点でとても苦労しました。ドイツ語のアクセントの位置を全員で合わせることは非常に重要で、各パートの一人一人が同じアクセント、強弱で演奏することが求められました。話す場合のアクセントはもちろんです。歌でのアクセントは音の長短に引っ張られることもあり、言葉の処理についてみんなで話し合うことが頻繁にありました。一つ一つの単語の感じ方も難しく、様々な言葉で説明してもらい、どのような感覚で歌うのが良いのかを先生と話し、バロックならではの奏法についても学びました。私はソプラノなので、一番上の旋律を歌うことが多く、テキストやアクセントについてたくさん注意を受けることが多かったのですが、ゲネラル・プロベの日、先生が私の頑張りについて褒めてくださり、一緒に演奏する仲間たちも私に労いの言葉をかけてくれました。他の授業で歌っても、まだまだ発音は難しいですし、日本語にはない舌の使い方や口の開け方に戸惑う事ばかりですが、少しずつ慣れていくことと決してあきらめず根気よく取り組もうと決意しました。コンサートの会場はホールではなかったのですが、とても綺麗で、響きもよく、本当に素晴らしかったです。お客さんもたくさん来てくださり、語学学校の友達や寮の友達、タンデムパートナーも見に来てくれ、非常に良い経験ができました。

また、その2週間後に、ハンブルク音楽大学の学長と挨拶をし、この大学で学べることに對して感謝の気持ちを述べました。学長は何年か前に名古屋に行ったことを嬉しそうに話して下さり、その時にもらったという絵を見せて下さいました。非常に温和で優しい方で、とても楽しい時間を過ごさせて下さいました。写真も一緒に撮って下さり、冗談を交えながらゆっくり話して下さるお心遣いが有難かったです。たくさん感謝の気持ちが伝えられるよう、もっと語学力を磨かねばならないな。と感じました。



ハンブルク音楽大学(ドイツ) 留学報告 Vol.5

私は学生寮に住んでいるのですが、カビがひどかったため、最初住んでいた2階から4階に引っ越しをしました。学生寮では、キッチン、シャワー、トイレが共同で、ご飯はキッチンでみんな一緒に食べたりします。2階に住んでいた時は、人数が多かったこともあり、部屋に持って帰って食べることがほとんどでしたが、最近は時間に余裕ができたこともあり、一緒に料理をしたりしています。私のフロアは6人しか住んでおらず、ポーランド人のピョートル、同じ日本人の絵美、中国人のジャチ、パキスタン人のアーサン、イタリア人のフェデツレがいます。ポーランド料理や、パキスタン料理、寿司パーティーなど毎週末に誰かが自国の料理をふるまってくれます。スパイスが多かったり、辛かったり、生魚を食べたことがなかったりと違う国の文化を受け入れることは簡単ではないですが、仲良くなれたらキッチンも使いやすくなり、楽しくなりました。



学生寮には練習室があるため、音楽の学生が多いですが、いろんな専攻の方がいます。私は歌で、絵美はピアノ、フェデツレはトロンボーンを勉強していますが、ピョートルは心理学、アーサンは機械関係、ジャチはデザインで、本当に様々です。みんなとても親切で優しいので、寮に入れてよかったと思っています。暖房が壊れて、直るのに1週間かかり、3日間シャワーが使えなかった時は、ドイツってこういう国だよね！とみんなで文句を言っていました。直った日にみんなでグリルパーティーをして、ドイツは最高だぜ。と言っていました。

いまだに慣れないのが、パーティーの時に知らない人がたくさん来ることで、初対面の人が多く、みんな自己紹介から始めます。共通でない友達でも日本よりも簡単に誘うことが普通のように、友達に誘われて行ったら知らない人ばかり！ということはよくあります。パーティー慣れしていないので、何を話したらよいのやら…と途方に暮れてしまうことも多いですが、外国人のコミュニケーション能力を参考に、自分もたくさん話したいといつも思っています。

リスト音楽院(ハンガリー) 留学報告①Vol.1

音楽研究科博士前期課程 鍵盤楽器領域 高木侖さん

私は昨年の8月末からパートタイム学生として、ハンガリー国立リスト音楽院に留学しており、週に1回の実技レッスンと室内楽の授業をとっています。また日本人留学生は、日本語で週に2回ハンガリー語の授業を受講することができます。

リスト音楽院には本校舎、新校舎(Ligeti Building)、旧校舎(Régi Zeneakadémia)の3つの校舎があります。本校舎には、Grand Hall と Solti Hall の2つのコンサートホールがあり、ほぼ毎日のようにコンサートが行われています。リスト音楽院の学生は、事前に予約さえすれば無料で聴くことができます。学校以外のコンサートホールでも頻繁にコンサートがあるのですが、驚かされたのがチケットの値段です。ほとんどのコンサートが、学生券であれば日本円にして300円ほどで聴くことができます。日本で生活していたときには考えられないようなことだと思いました。このように気軽に様々な音楽に触れる機会が多くあることが、ヨーロッパの留学生活の魅力の1つのように感じています。



まず住居ですが、私が入居する予定のアパートが9月末からしか入居できなかったため、最初の一か月は日本人の方がやっている日本人宿で過ごしました。ルームシェアという感じだったので不安はありましたが、同じリスト音楽院の留学生もたくさん泊まっており、はじめての海外生活で心細かったときにまだわからない学校の情報やビザの申請のことなど教えていただきとても心強く、少し慣れてきた頃にアパートで一人暮らしという流れだったので、逆に自分にとってはそれが良かったように思います。アパートの立地はとても良く、3つの校舎とも歩いて約10分で通える距離で大変満足しています。部屋は2部屋、キッチン、ユニットバスがついており一人暮らしでは十分すぎるほどの広さですが、基本的に物価が安いので家賃は日本ほど高くはありません。また市内中心部に位置しているので、周辺にはスーパー、24時間営業のコンビニ、飲食店などがたくさんあります。トラムに少し乗れば大きなショッピングモールもあり、とても生活しやすい環境です。

ヨーロッパでは3月末からサマータイムが始まりました。日も徐々に長くなり街の雰囲気明るくなってきたように感じます。残りの留學生活もあと2か月となりましたが、音楽以外にもハンガリーの良いところ、文化をたくさん吸収できるよう1日1日を大切に過ごしたいと思います。



リスト音楽院(ハンガリー) 留学報告②Vol.1

音楽学部 器楽専攻ピアノコース 渡辺理紗子さん

私は guest student として、リスト音楽院の BA の授業を取っています。
私の 1 週間のスケジュールは以下の通りです。

月曜日 日本人のためのハンガリー語 ソルフェージュとアナリーゼ
音楽家のための英語
火曜日 哲学 ヨーロッパ文化の歴史
水曜日 ハンガリー語(英語による) ピアノ・レッスン
木曜日 西洋音楽史 Music is Your Body 室内楽レッスン 音楽家のための英語
金曜日 日本人のためのハンガリー語 ピアノ・レッスン

土曜日は隔週で Historical Dance があり、ホームレッスンにも通っています。
また、日曜日はレッスン室で全日練習をしています。



次にハンガリーでの生活ですが、私はハンガリー人のおばあさんの家にホームステイをしています。学校まで徒歩 15 分ですが、トラムを使用しています。学生定期はメトロ、トラム、バスの全てに使用ができ、1 ヶ月 3,450 フォリント(1,380 円)で購入できます。ブダペスト市内は交通の便がとても良いので快適に移動する事ができます。スーパーや 24 時間営業しているコンビニ、ドラッグストアも数多くあるので生活面で困る事はほとんどありませんが、スーパーやドラッグストアの商品にほとんど英語表記がないので、ハンガリー語の辞書が必須です。

最後に練習に関してですが、私はピアノのレンタルをしているため日中は家で練習をしています。学校にも 6:30~23:30 まで利用できる練習室があるので、朝と夜は練習室を使用しています。Web 上で 1 日4時間まで予約をする事ができ、使用していない場合は予約なしでも利用する事ができます。グランド・ピアノのある練習室が 7 室、アップライト・ピアノのある部屋が 9 室、その他にピアノのない練習室があります。日本に比べると、ピアノの質は良くありませんが、授業以外の時間はいつでもピアノの練習をする事ができるので、週 3 回のレッスンに対しての練習時間の確保をすることができます。



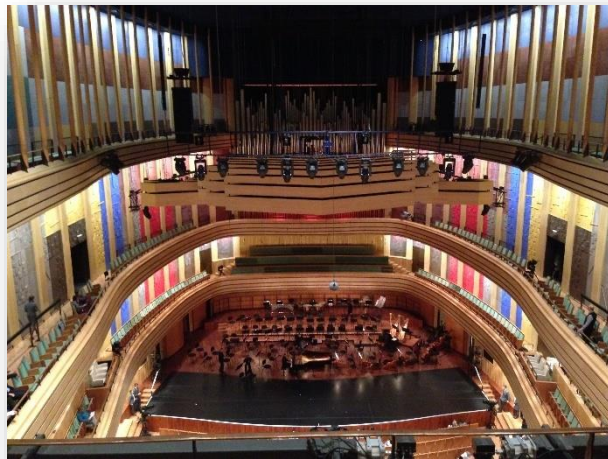
ハンガリーでの生活も 2 ヶ月が経ちますが、日本にいた頃よりも音楽中心の生活を送る事ができ、とても充実した時間を過ごす事ができています。次回は、授業やコンサートについてお話ししたいと思います。

リスト音楽院(ハンガリー) 留学報告②Vol.2

今回はコンサートと授業についてお話したいと思います。

リスト音楽院の本校舎には、大ホールと小ホールがあり、その他に旧リスト音楽院でもコンサートが行われています。ほとんど毎日コンサートが開催されており、リスト音楽院の学生は事前に予約をしている場合など基本的に無料で聴く事ができます。

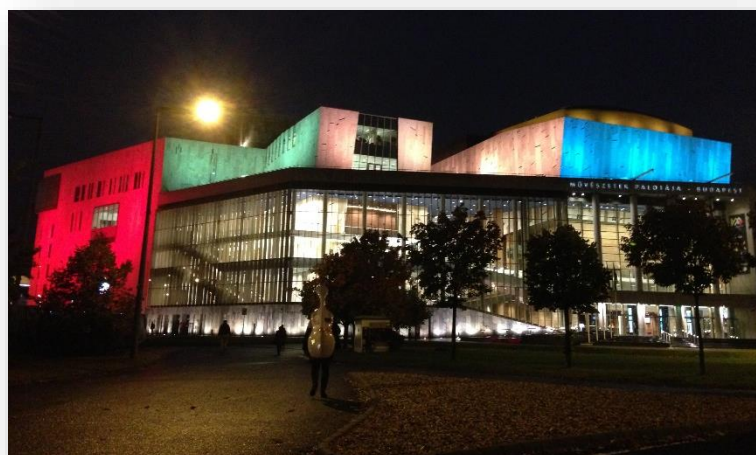
もう1つ大きなコンサートホールは Müpa Budapest という建物の中にあります。リスト音楽院からトラムで 30 分位で行くことができ、2005 年に完成されたとても立派な芸術劇場です。Bartók National Concert Hall や Festival Theatre などいくつかのコンサートホールがあり、中でも Bartók National Concert Hall は 1,699 名を収容できるとても大きなホールです。ここでは、ハンガリー国内の音楽家だけではなく、世界的に著名な演奏家によるコンサートも定期的に行われています。学生席は主に立ち見で、500Ft(約 200 円)で当日の開演の1時間前から購入することができます。



ハンガリーのコンサートは、開演時刻に始まる事がほとんどありません。また、日本のコンサートのような開場時刻も記載されておらず、ロビーでお酒や軽食、ケーキなどと共にお話を楽しみながら呼び鈴のような音楽が流れると、会場内に入場していくというスタイルのようです。また、休憩時刻も 20~30 分と長く、会場内に残る人は少なく、ロビーで過ごす人が多いようです。

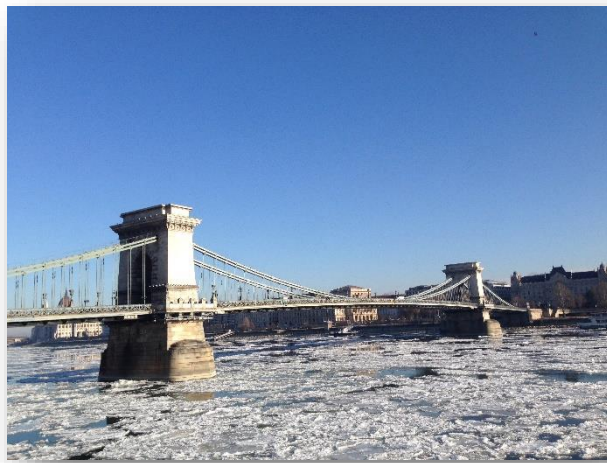
次に、私が取っている授業の1つ、ハンガリー語の授業についてお話します。リスト音楽院には日本人留学生が多いので、日本人講師による日本人のためのハンガリー語の授業が開講されています。この授業はパート・タイム生も受けることができます。月曜日と金曜日の週2回×90分授業です。ハンガリー語は単語から文法まで、英語とかなり異なるので、最初は授業についていけるか心配をしていましたが、先生も優しくとても丁寧に進めてくださるので、私でも少しずつ習得することができています。私は、この他に外国人留学生向けの英語によるハンガリー語の授業も取っています。こちらは会話を重視した授業の進め方で、日常生活で使えるような表現を学びつつ、そこで使われている文法についての説明が中心です。しかし、もう少しで前期が終わる頃になりますが、なかなか日常生活で会話を楽しむ事は難しく、例えばパン屋さんで”2つのジャムレが欲しいです(kérek szépen két zsemlét.)”ですら通じなかったり、市場での合計金額を聞き取れなかったり、発音も難しいです。残りの半年の間で、それくらいは楽しめるようになるように勉強をしたいと思います。

次回は、ハンガリー国立歌劇場やその他の授業についてお話ししたいと思います。



リスト音楽院(ハンガリー) 留学報告②Vol.3

今年のヨーロッパの冬は数十年ぶりの厳しい寒さで、ブダペストも -20°C まで下がりました。ドナウ河も流氷のように全体が氷で覆われる程でしたが、それはとても美しいものでした。さらに、お昼の3時頃には暗くなり始め、晴れる日もほとんどなく、気持ちもなかなか明るくならないものでしたが、ヨーロッパの冬の楽しみの1つ、クリスマスマーケットがブダペストにも Erzsébet tér (エルジェーベト広場)を中心に開かれました。厳しい寒さの中で熱々のホットワインを片手にクリスマスマーケットで可愛いハンガリーのお土産を見て回ったりして楽しみました。



ハンガリーのクリスマスは25、26日の2日間です。イヴの24日の午後から、街中にあるお店はどこも全て閉まり、街はすっかり静まり返っていました。私はハンガリー人のおばあさんのマリアさんの家でホームステイをしているのですが、クリスマスはマリアさんの娘さんのお家に招待していただき、1日娘さんの家で過ごしました。日本のお正月のように、家族みんなが集まり、御節料理のようにハンガリー料理が沢山作り置きされていて、お腹いっぱい食べて、そしてテレビを見ながら談笑、そしてまた食べて、そしてまたテレビを見ながら談笑…という幸せすぎる時間を過ごしました。



また、31 日の大晦日はブダペストにはこんなに人がいたのかと思う程に街中に人が溢れ出ていて、新年のカウントダウンは、花火を持ったり、打ち上げたり、また爆竹をしたりしながら、盛大に盛り上がる中、皆で声を揃えて行われ、華やかな新年を迎えました。クリスマスも大晦日も日本で過ごす時間とは全く違っていたので、少し違和感を感じながらも、良い経験ができたように思います。



さて、話は変わりますが、少しだけハンガリーの国立オペラ劇場についてお話をしたいと思います。国立オペラ劇場は、リスト音楽院の本校舎から徒歩 10 分程度の場所にあり、ほぼ毎日オペラやバレエが上映されています。学生チケットは当日開演の 2 時間前から 300 フォリント(120 円)~で購入する事ができます。他の国の場合、販売前から並ばなければ買えない事が多いかと思いますが、開演 5 分前でも購入する事ができます。しかし、学生席は見難い席である事は多いので、そういう場合は立ち見で観劇しています。国立オペラ劇場とは別にもう1つエルケル劇場でも同様にオペラを鑑賞する事ができます。